演奏に役立つ One Point Lesson

TROMBONE

トロンボーン

タタタタタタタタタタタタタタタタ……た

黒金寛行 くろがね・ひろゆき

◆出身　福島県立磐城高等学校　東京藝術大学
◆所属　NHK 交響楽団
◆趣味　世界の美酒めぐり
◆血液型　O型
◆星座　おうし座
◆読者にひとこと　楽しく、いい音楽しよう
◆手紙の送り先　BJ気付

すっかり暑くなりましたね〜。いかがお過ごしですか？　コンクールに向けてますます気合の入る頃かな。僕も朝から晩まで練習した夏を思い出すなぁ。音の出る部活なので、やはり近隣住民の苦情がツライ。そこで防音対策として、音楽室の床、壁にありったけの毛布を1時間かけて貼りつけたものの、あまりの暑さとガムテープのニオイ（なんか目がショボショボするんだよね……）に、チューニングB♭を出しただけで撃沈（汗）、また1時間かけて撤去した……。いずれにしても悔いのない夏を過ごすためにも基礎をしっかり固めて、自信を持って本番に臨もう！

今月は、楽器を演奏するうえで重要なテクニック、タンギングの練習をしよう。音を短く切ったり、連続して演奏しなければいけないときに、口の中でどう「しゃべる」か。それってとても重要なこと。速いタンギングをできるようになるのは大切なことだけど、**『正確に、キレイに』発音できるように**気をつけてみよう。

■タンギングのメカニズム

タンギングっていうと、「舌で突っつく」イメージを持っている人が多いけど、ちょっと違う。上の歯の裏側、もしくは上下の歯の間（噛まないこと）に舌を置き、それを息を出すのと同時に開放してあげて（舌を軽く引く感じ）、音の出だしを作る**［図1］**。このときにアゴが動かないように注意。タンギングの作業をするのは、口の中だけです。

［譜例1］を演奏してみましょう。舌に力を入れすぎずに、でも素早く動かします。口の中で「ターン」としゃべるように。音の出始まりが「ファサ〜」って感じだったら残念。舌の動きが「ぬらぁ〜」と、遅いのかもダメ。少し強めにしゃべってあげて。逆に「タゥ〜」とブレるようだと強すぎ。理想的な音の形は**［図2］**のように、四角いヨウカンみたいな形。出だしだけ少〜し、とんがった形を目指してみて。

■リズムやテンポを変えてみよう

キレイな形を作れるようになったら、**［譜例2］**のようなリズムを練習してみよう。最初はゆっくりから、メトロノームのメモリを1つずつ速くして、いける速さまで。

だいぶ慣れてきたかな？　もっと速く、もっと速く……と練習してると、「もう無理!!」というテンポの壁にぶち当たるよね？　そういうときに、必要になるのが「ダブル・タンギング」。説明すると、「タカタカ」「トゥクトゥク……」と発音するだけ。説明するだけなら簡単なんだけど、実際にやってみると実に難しい。均等に音が切れている状態を目指して頑張ろう。

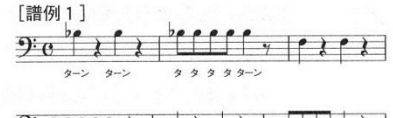
ここで僕が実践しているコツを紹介しよう。まず、「タッ、カッ、タッ、カッ、タッ」としゃべってみましょう。もっと大声で！　もっと子音（しいん）を強烈に！　とくにカッを強く！　それを今度は楽器で**［譜例3］**。ここでなるべく、**「タ」と「カ」の発音の差がなくなるように**。大体の場合、「カ」の発音がゆるくなっちゃいます。この段階で、強い発音を体に叩き込むことが大事。だいぶ粒が揃ってきたら、先ほどの**［譜例2b］**をテンポ120くらいでやってみましょう。このテンポで演奏するときは、あまりきつい発音にせずに。息の流れを止めないように、流しちゃいましょう。「ダガダガ……」という感じ。はじめに一つひとつ独立させて強い発音ができる状態まで作れたら、速いテンポでは流しちゃってもちゃんと切れてると思います。コツをつかむまで、少し大変かもしれないけど、地道に練習してみて。

同じく「カ」を使うタンギングとしては、他に「トリプル・タンギング」もあります**［譜例4］**。こちらも同じ方法で練習してみて。

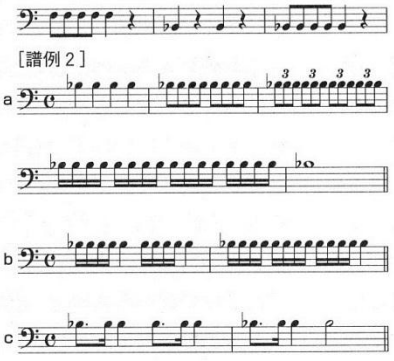
■いろいろな発音で

ここで、少し違う観点から。今までシングル・タンギングは「タタタ……」と発音しましたが、今度は「ダダダ……」と発音してみて。少し鈍く、重いような音になりませんか？　次は「ラララ……」でどうぞ。丸く柔らかい切れ方になりますよね？　このように「どうしゃべるか」で、出したい音のニュアンスが変わってきます。僕が感じる音としゃべり方の関係をまとめてみました**［表］**。僕は、ダダダ……系は、よくフォルテで強烈なインパクト系のときに使ってます。難しいのはラララ……系。説明は難しいんだけど、「ダと、ラ」の間、「ラぁっ」と強く「R」の発音をする感じ。コレをレガートタンギングと呼んだりしますが、トロンボーンはコレが一番難しい。切ったつもりで切れてない“たくあん”…「…母ちゃんつながってるよ、これ」みたいにならないように。いろんなリズムを練習して、歯切れよい演奏をしましょう。では、熱中症に気をつけて、また来月！

［譜例1］

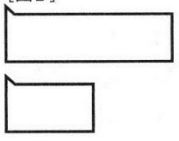


［譜例2］



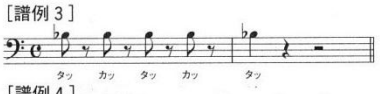
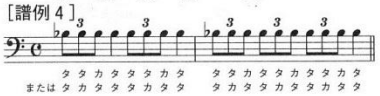
［図1］口の中

［図2］



D	T	R
ダー	ター	ラー
重たい	ノーマル	柔かい・丸い
fのとき・強烈	はっきり	レガートタンギング

［譜例3］



［譜例4］